

授業科目名 (英文名)	保健統計 (Health Statistics)	科目区分 対象学生	
単位数	1.0	開講年次・ 学期	3年次・後期
担当教員	片山 貴文	所属	看護学部
オフィス・場所		連絡先	
講義目的及び到達目標	<p>本講義では、さまざまな研究によって得られた健康情報から、正しい情報と誤った情報を見極める力を身に付けることで、真の科学的根拠に基づいた看護の知識を収集できるようになることを講義目的としています。具体的には、人間集団を対象としたデータを扱う上で紛れ込む様々な「みせかけ」の存在に気付き、「みせかけ」が調査結果に与える影響を理解し、「みせかけ」の種類を区別して、「みせかけ」の影響を減らす方法を理解することを到達目標としています。</p>		
講義内容・授業計画	<p>講義内容 保健統計では、人間集団を対象としたデータを扱う上で生ずる特殊性を理解することに重点を置いている。これは、看護系の論文を理解する上でも、患者から得た情報を分析する上でも、知っておかなければならない重要な内容である。こうした内容について、テキストに沿って講義をすすめるとともに、具体的な事例(各種場面での落とし穴)を紹介しながら、理解を深めていく。</p> <p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 数字の落とし穴 (断面調査の限界) 2. 検査・アセスメントの落とし穴 (感度、特異度、的中率) 3. 健康診断の落とし穴 (リードタイム、レンジタイムバイアス) 4. 目に見えない看護の力の落とし穴 (ホーソン効果、プラセボ効果) 5. 改善の落とし穴 (平均への回帰、比較対照) 6. 頑張らない人の落とし穴 (脱落、偏り) 7. 老化予防の落とし穴 (因果関係、必要条件、十分条件) 8. 健康長寿の落とし穴 (因果の逆転) 9. 認知症予防の落とし穴 (研究デザイン、交絡因子、目隠し) 10. 研究の落とし穴 (偶然、ネガティブデータ、出版の偏り) 11. 特定保健用食品の落とし穴 (真の指標、代理の指標) 12. リスクの表現 (相対危険、オッズ比、寄与危険、死亡と致命) 13. ポピュレーションアプローチ (人口寄与危険、罹病率、有病率) 14. 交絡因子の制御 (マッチング、層化、多変量解析) 15. 看護実践への応用 (エビデンス・ガイドライン、推奨レベル) 		
テキスト	臨床疫学 EBM実践のための必須知識 第3版 福井 次矢(監訳)、メディカル・サイエンス・インターナショナル、ISBN: 978-4895928533		
参考文献	指定なし		
成績評価の基準・方法	<p>研究に紛れ込む落とし穴に関する知識を有する者に単位を授与する。「みせかけ」の存在、「みせかけ」が調査結果に与える影響の理解度を、到達度に応じてSからCまでの成績を与える。</p> <p>定期試験(80%)に、平常点(授業態度 20%)を加えて評価する。</p>		
履修上の注意・履修要件	事前の予習(テキストを事前に読み、理解できない所を書き留めてくる)、講義後の復習(学習した内容をノートに記載する)が不可欠です。講義ノートを用意して、大切なことはノートに記載してください。		
実践的教育	該当しない		
備考			